

17) 第4節 安全で快適な生活環境の実現

目的:安心してゆとりのある暮らしができるようにする

指標:安心やゆとりを感じている人の割合

① 目的

都市基盤の整備がある程度充足された現在、市民が求める生活は、量的な充足から質的向上へと変化し、住環境や自然環境に対する関心が高まり、災害や日常生活に対する安全性の向上が求められるとともに、より環境にやさしい生活スタイルが望まれており、安心してゆとりある社会づくりが重要と考えます。

② 指標

環境負荷低減、防災上の安全確保、消費生活におけるトラブルの減少は、暮らしに安心感を与え、住環境の拡大や自然環境の保全は、多くの人々にゆとり感を与えます。これらの安心やゆとりを感じている人の割合が増えることを目指します。

③ 設問

この指標は、「安心やゆとりの6項目の満足度」を組み合わせ聞いている。「地域・態度（評価）」

「保健・医療・福祉サービス」「緑地・河川などの自然環境」「空気のきれいさ、騒音、悪臭などの公害の少なさ」「まち並み、建物などまち全体の景観」「住環境のゆとりなどの住宅事情」「事故や災害に強い安全なまち」の6項目

あなたが松戸市で生活する中で、上記の6項目についてそれぞれの程度満足していますか。（1つに○）

- | | | |
|------------|--------------|---------|
| 1 十分満足している | 2 まあまあ満足している | 3 普通である |
| 4 やや不満である | 5 きわめて不満である | 6 わからない |

④ 指標の現状（値）

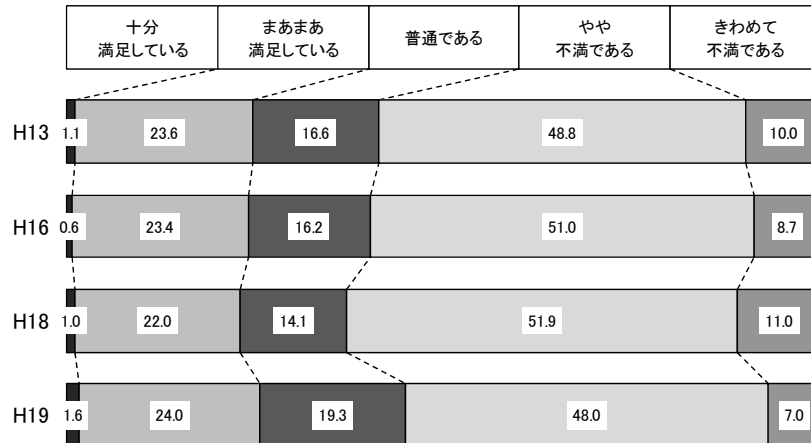
カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H19年度 (目標値)
十分満足している	1.1%	0.6%	1.0%	1.6%	
まあまあ満足している	23.6%	23.4%	22.0%	24.0%	
計	24.6%	24.0%	23.0%	25.6%	30.0%

⑤ 指標の分析

◆ 安心やゆとりに関する満足度は増加、日常生活の安心感や安全性を求める地域ニーズ

日ごろ生活する中で、安心やゆとりに満足を感じている人の割合は、前回から2.6ポイントの増加が見られる。ただし、平成19年度目標値とは4.4ポイントの開きがあった。日常生活での保健福祉サービスや地域環境全般に関わる総合的な指標となっているため、少子高齢化や環境の保全、地域安全の確保など、社会的背景も踏まえ増大するニーズ・課題への対応がさらに求められる。幅広い分野・対象への取り組みを今後も継続していく必要がある。

【安心やゆとりの6項目の満足度】



注) 安心やゆとりの6項目の総合満足度については、次のような方法にもとづき算出している。

- ・ Q17 ア、ケ、コ、サ、シ、スの6つの質問の選択肢に表1の評価点をそれぞれ与える。
- ・ 6つの質問の評価点の合計点を表2にしたがい分布をとる。

表1

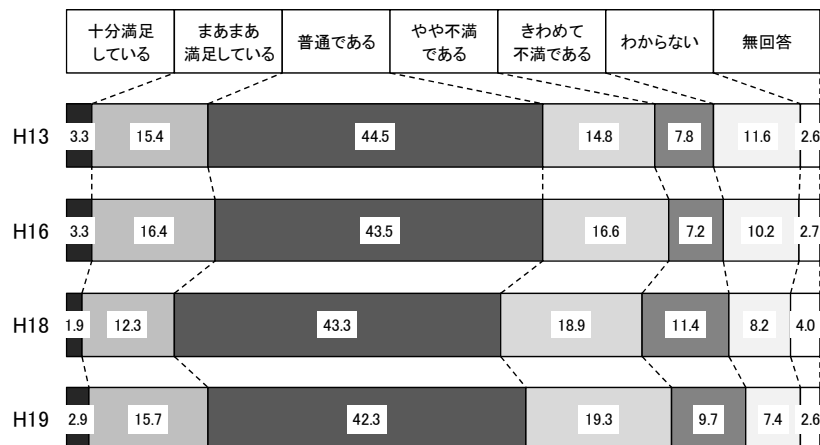
①「十分満足」	+2
②「まあまあ満足」	+1
③「普通」	0
④「やや不満」	-1
⑤「きわめて不満」	-2

表2

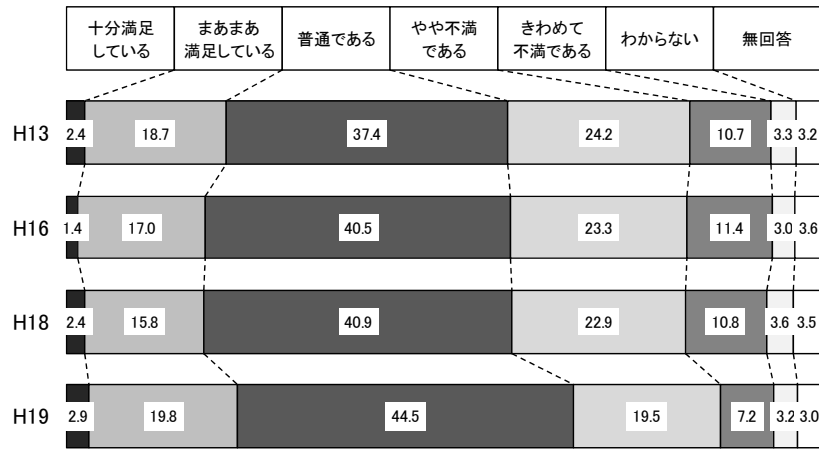
①	7点以上（十分満足している）
②	1～6点（まあまあ満足している）
③	0点（普通である）
④	-1～-6点（やや不満である）
⑤	-7点以下（きわめて不満である）

「安心やゆとりの6項目の満足度」に関する各項目ごとにみると、保健・医療・福祉、自然環境、公害、景観、住宅事情、まちの安全性などの6項目のすべてにおいて、“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度合いが前回と比べ増加が見られる。また、“やや不満である”と“きわめて不満である”を合わせた割合も全項目で減少している。

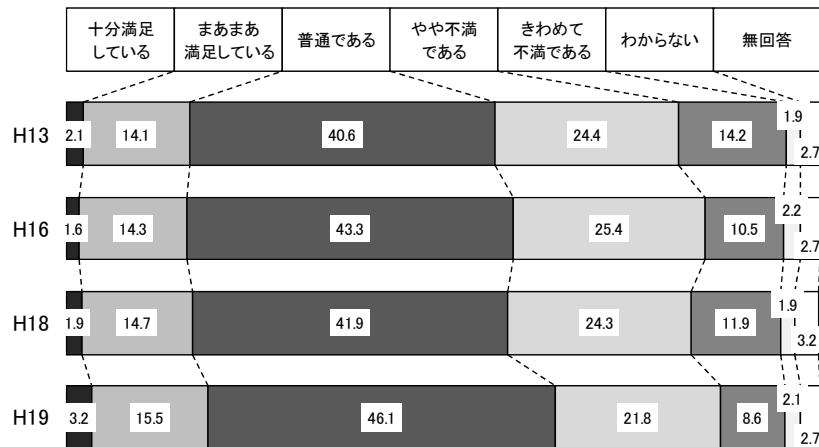
【保健・医療・福祉サービス】



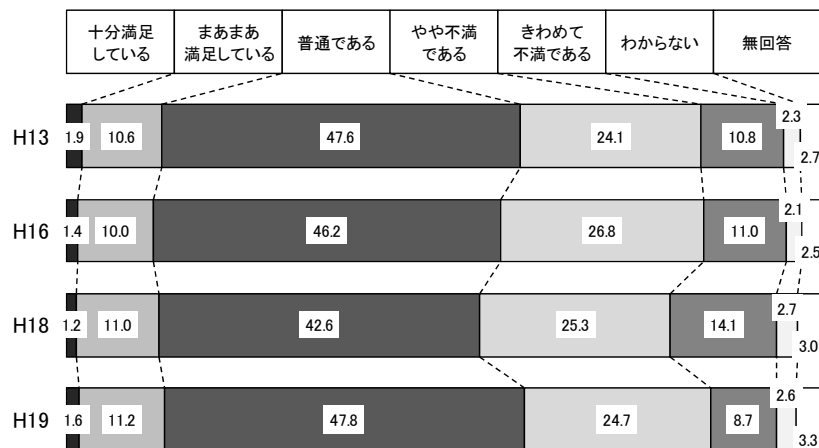
【緑地・河川などの自然環境】



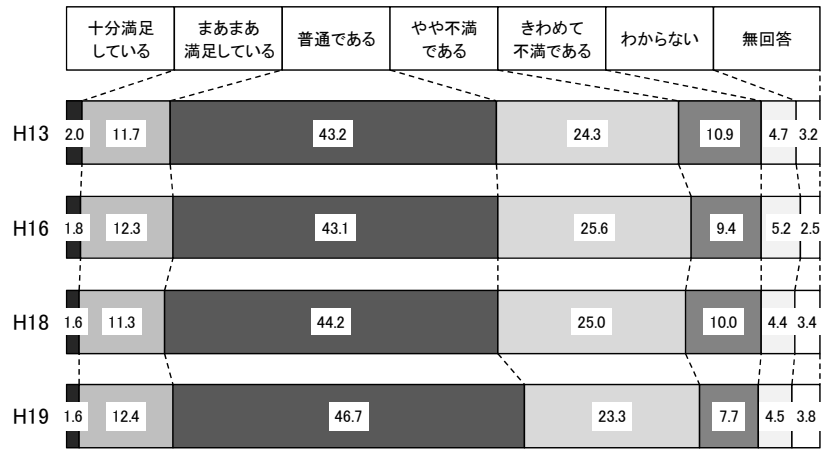
【空気のきれいさ、騒音・悪臭などの公害の少なさ】



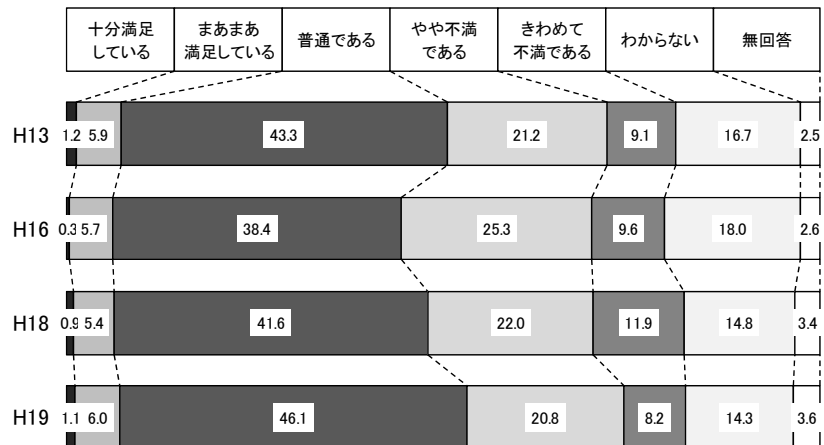
【まち並み、建物などまち全体の景観】



【住環境のゆとりなどの住宅事情】



【事故や災害に強い安全なまち】



18) 第4節 安全で快適な生活環境の実現

第2項 人と自然が共生するまちづくり

目的:緑や水にふれあえるようにする

指標:緑地・河川などの自然環境に満足している人の割合

① 目的

市民は、自由時間の増大などにより、自然とふれあう余暇活動や、緑や川のボランティア活動への参加といった生活意識の変化に伴い、ゆとり、潤い、安らぎを豊かな緑や水辺に求めています。また、緑には機能面では環境保全、レクリエーション、防災および景観といった大切な役割があり、河川には治水・利水機能だけでなく多様な自然環境や水辺空間を活かした潤いのある生活と、地域の文化を育む場としての役割が求められています。

② 指標

緑や水にふれあう度合いが増すことによって、これらの自然環境に対する市民の満足度も高くなると考え、緑地、河川などの自然環境に満足している人の割合を測ります。

③ 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「地域・態度（評価）」

「緑地・河川などの自然環境」の項目

あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてそれぞれどの程度満足していますか。（1つに○）

1 十分満足している 2 まあまあ満足している 3 普通である

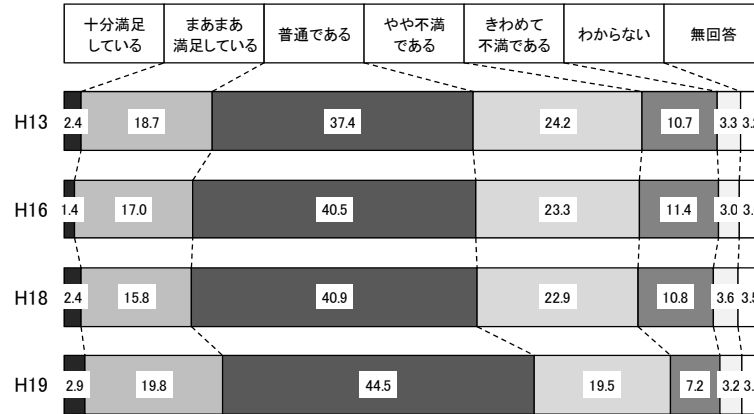
④ 指標の現状（値）

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H19年度 (目標値)
十分満足している	2.4%	1.4%	2.4%	2.9%	
まあまあ満足している	18.7%	17.0%	15.8%	19.8%	
計	21.1%	18.4%	18.2%	22.7%	25.0%

⑤ 指標の分析

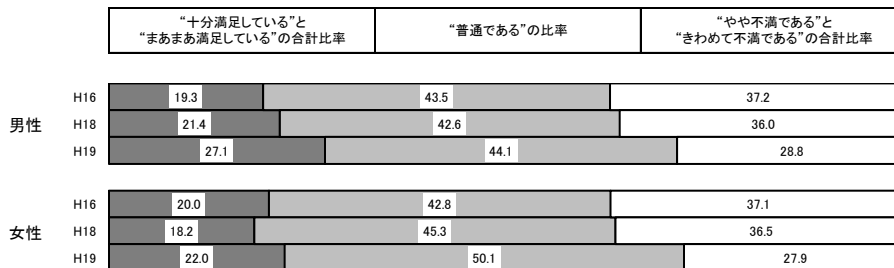
◆ 自然環境に対する満足度は増加

緑地や河川などの自然環境についての満足度は、前回に比べ4.5ポイントの増加が見られ過去最高となった。しかし、平成19年度目標値とは、2.3ポイントの開きがあった。



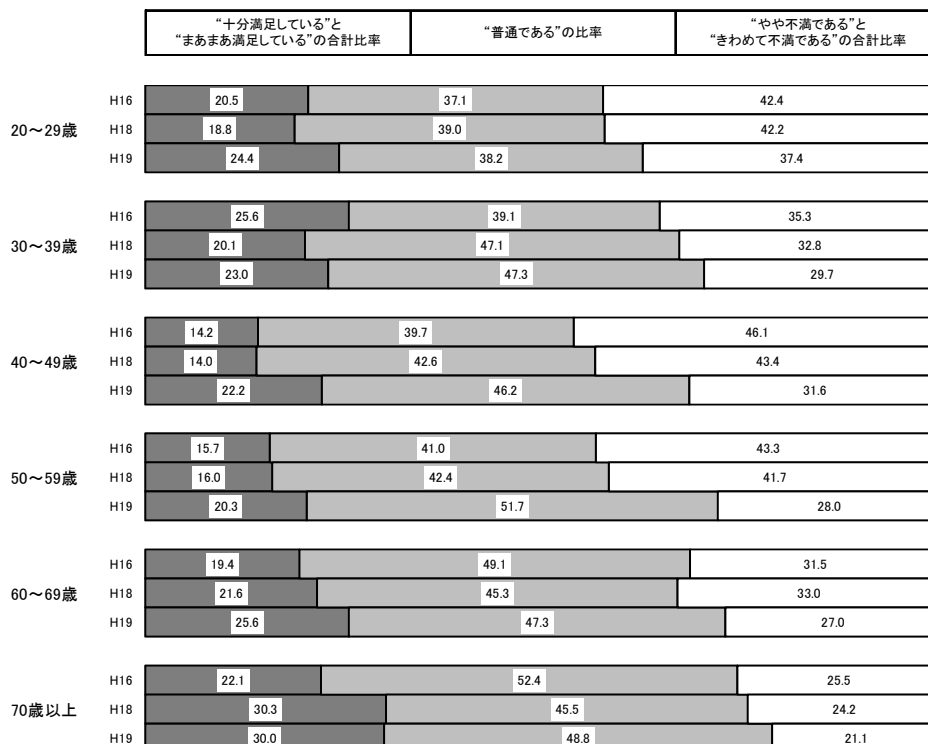
性別でみると、“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度は男性の方が高くなっている。男性、女性の両方で、不満と感じる人の割合が、前回に比べ減少している。

【自然環境×性別】



年齢別にみると、すべての年齢層で“十分満足している”と“まあまあ満足している”を合わせた満足度が、前回に比べ増加している。しかし、70歳以上以外の年齢層では、“やや不満である”と“きわめて不満である”を合わせた不満度の方が満足度を上回っている。

【自然環境×年齢】



19) 第4節 安全で快適な生活環境の実現

第4項 安全で安心な地域環境づくり

目的:日常生活における火災・交通事故および地震等の災害が発生した時に被害を少なくする

指標:災害に対して自ら対策を講じている人の割合

① 目的

災害はいつどこで発生するのか分かりません。市民が安心して日常生活を送ることができるまちをつくるために、市民と行政が協力して、災害が発生しても最小限の被害で止めることができる「災害に強いまちづくり」が重要と考えます。

② 指標

ひとたび大地震が起これば建物の倒壊、火災、ライフライン等への多大な被害が発生し、人的被害が拡大する危険が潜んでいます。これらの被害を最小限に抑えるためには、行政による防災体制の確立を図るとともに、地域住民の防火防災意識の高揚や自主的な訓練など、日ごろからの備えが極めて重要です。

③ 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いている。「個人・行動」

あなたは日頃、防災のための準備をしていますか。(全てに○)

- | | | |
|---------------|---------------|----------------|
| 1 消火器の設置 | 2 家具などの転倒防止 | 3 水や食糧の備蓄 |
| 4 非常持ち出し用品の確保 | 5 身内との連絡方法の確立 | 6 避難経路や避難場所の確認 |
| 7 防災訓練などへの参加 | 8 その他() | 9 特に準備はしていない |

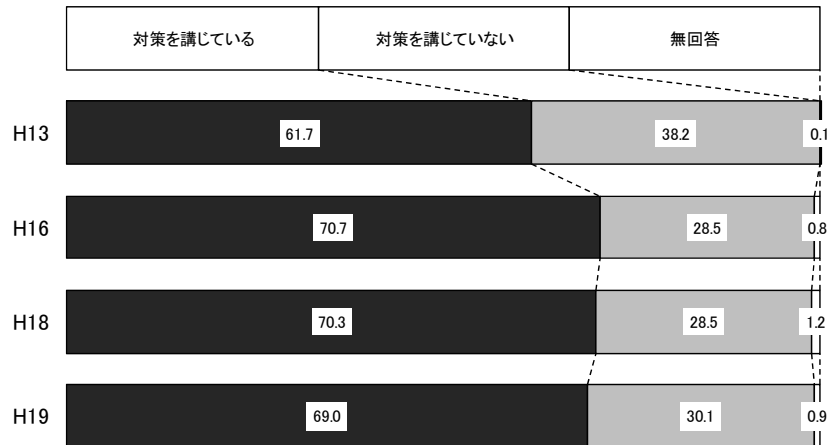
④ 指標の現状(値)

カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H19年度 (目標値)
対策を講じている	61.7%	70.7%	70.3%	69.0%	70.2%

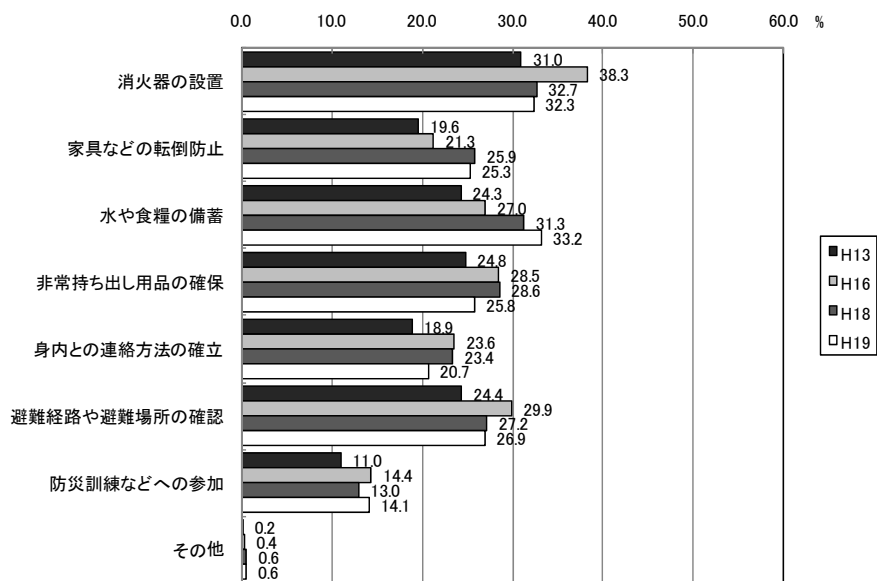
⑤ 指標の分析

◆ 災害に対する備えをする人は、僅かに減少

災害に対して何らかの対策を講じている人は、僅かな減少が見られ、前回まで達成していた平成19年度目標値を1.2ポイント下回る結果となった。しかし、国内における地震や台風、大雨などによるさまざまな大災害が発生している昨今、市民一人ひとりの防災に対する関心は高いことがうかがえる。

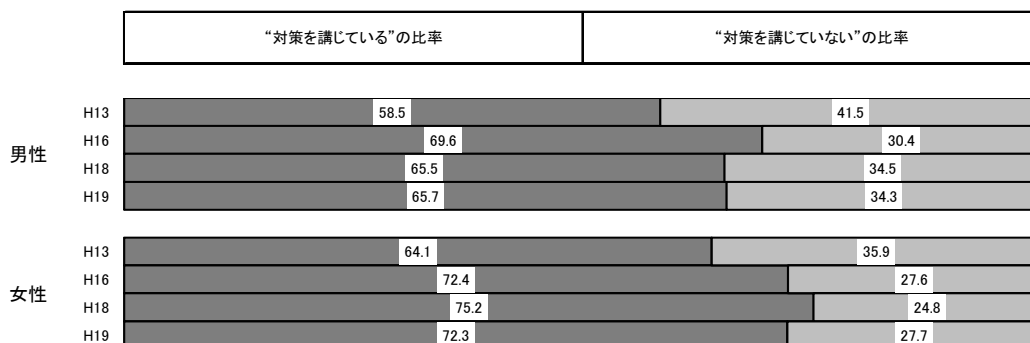


対策を講じている内容としては、“水や食料の備蓄”(33.2%)と“消火器の設置”(32.3%)が3割を超え、比較的高い割合を示している。前回から増加している内容は、“水や食料の備蓄”、“防災訓練などへの参加”となっており、そのほかの内容は横ばいまたは減少している。



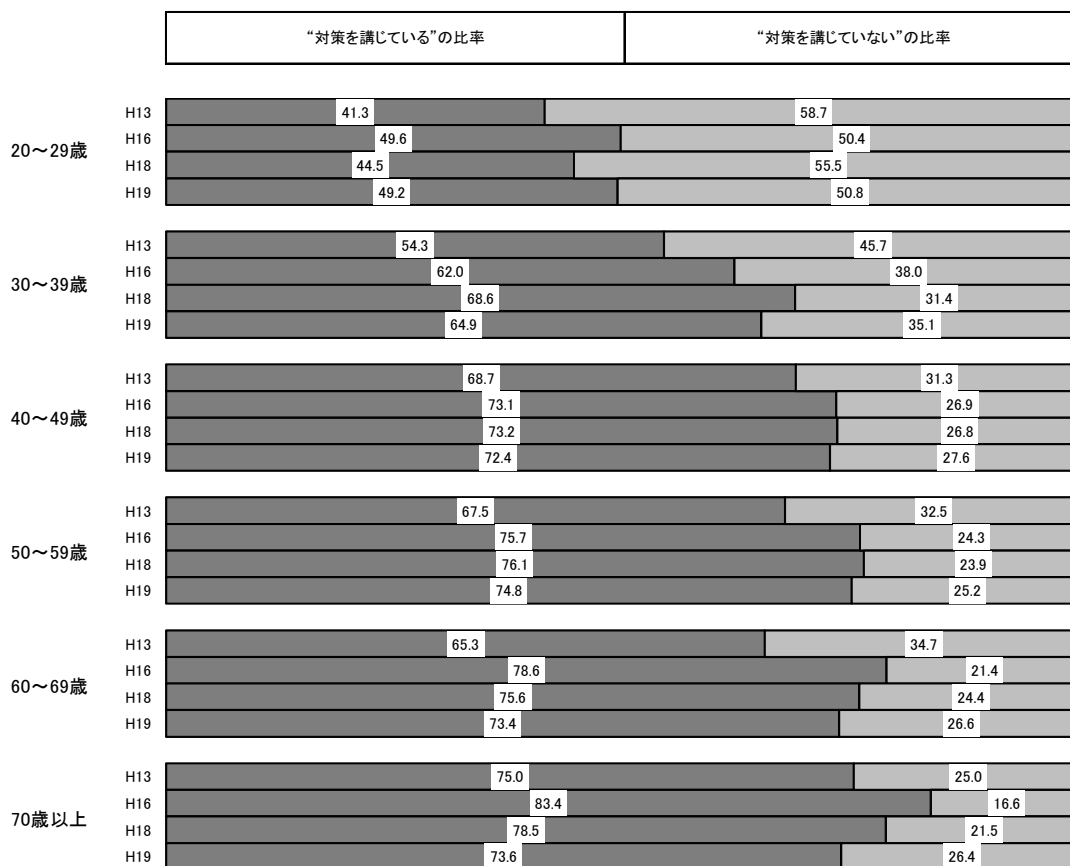
性別で見ると、前回同様女性の方が対策を講じている人の割合が高い。

【防災意識×性別】



年齢別にみると、年齢層が上がるにしたがい、対策を講じている人の割合も高くなっている。また、20歳代を除く世代で、前回に比べ減少が見られるにもかかわらず、前回同様6割を超える結果となっている。

【防災意識×年齢】



20) 第4節 安全で快適な生活環境の実現

第5項 自立をめざした消費者行政の推進

目的:商品やサービスの購入時に、トラブルに巻き込まれることが少なくなる

指標:商品やサービスの購入時に、トラブルに巻き込まれた人の割合

① 目的

消費者生活に関する相談件数は、年々増加の一途をたどっています。

販売形態の多様化や悪質商法によってトラブルに巻き込まれてしまうことが多くあり、なかでも、キャッチセールスやアポイント商法等の被害が多い若者(10代、20代)や催眠商法等の被害が多い高齢者(60代以上)の相談が相談件数の4割以上を占めています。

また、相談件数の多い30代では、資格商法やマルチ商法等の被害に巻き込まれてしまうケースが目立っています。このような多様化するトラブルに市民が巻き込まれないようにすることが必要と考えます。

② 指標

消費者トラブルに巻き込まれた人の割合を減少させ、自立した消費行動をとれるよう支援していきます。

③ 設問

この指標は、次の設問により期間を限定して直接的に聞いている。「個人・行動」

設問:あなたは、この1年間に買い物などの消費の際にトラブルや被害にあったことがありますか。

(全てに○)

- 1 店舗で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 2 訪問販売で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 3 通信販売で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 4 電話勧誘販売で購入した商品やサービスでのトラブルや被害
- 5 その他()
- 6 トラブルや被害にあっていない

④ 指標の現状(値)

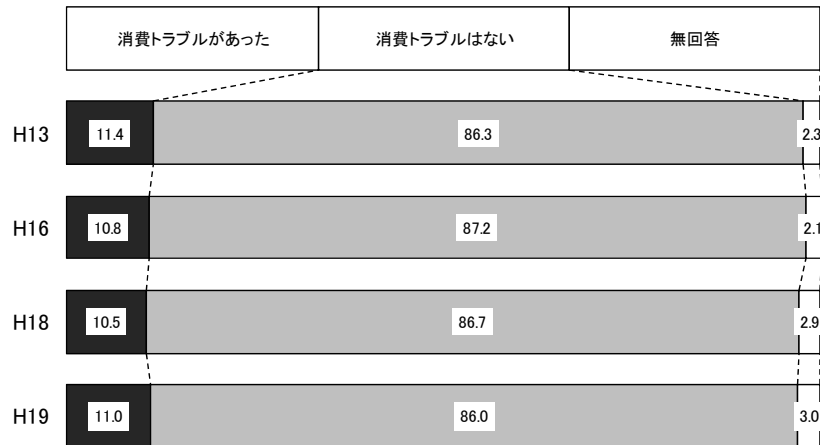
カテゴリー	H13年度	H16年度	H18年度	H19年度	H19年度 (目標値)
トラブルや被害に巻き込まれた	11.4%	10.8%	10.5%	11.0%	10.0%

※減少したほうが良い指標です。

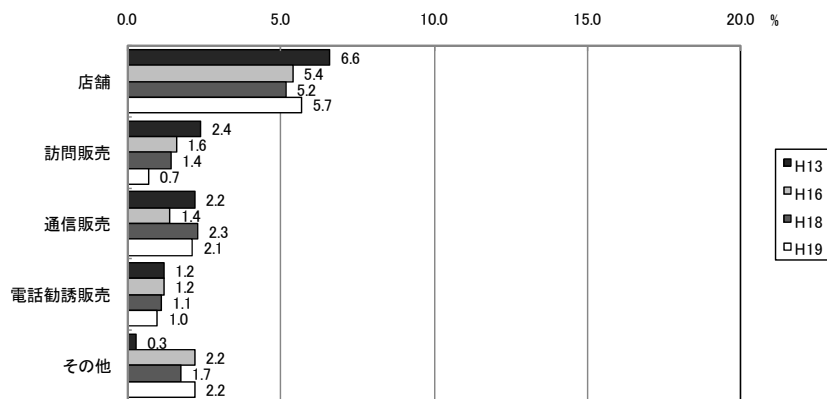
⑤ 指標の分析

◆ 消費者トラブルにあう人は僅かに増加

消費者トラブルにあったことのある人の割合は、前回に比べ僅かに増加しており、平成19年度目標値に達しなかった。回答者全体に占める割合は少ないものの、消費者トラブルの多様化、複雑化が進む今日、未然防止に向けた消費者保護対策をさらに取り組んでいく必要がある。

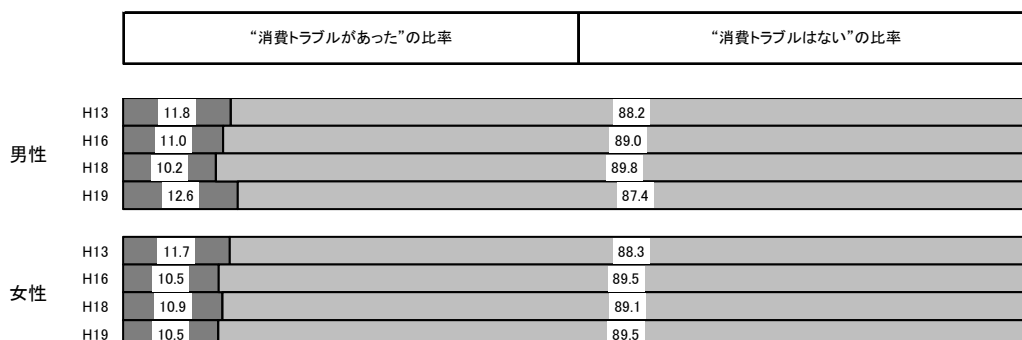


トラブルや被害の内容としては、前回、前々回と同様“店舗”によるものが5.7%と最も高く、そのほかの内容の2倍以上となっている。



性別による違いはほとんどみられないが、男性で“消費トラブルがあった”が僅かに増加している。

【消費トラブル×性別】



年齢別にみると、何らかのトラブルにあっていない人の割合は年齢層に関係なく1割前後見られる。そのうち、トラブルにあった割合が最も高いのは20歳代で15.8%となっている。

【消費トラブル×年齢】

